

2013年6月21日掲載

「子は鏡」

私には6か月になる息子がいる。札幌市の4か月検診の時のことである。診察した医師が「少し冷たいかも知れないよ」と聴診器を息子の肌に当てようとする、息子はニコッとほほ笑んだ。それを見た医師は「赤ちゃんが笑うのは、家族がいつも笑っているということなんですよ」と伝えてくれた。

この話を聴いて、出産後しばらく実家にいたとき、父母、祖母、弟のほか、親戚や友人たちが訪れ、たくさん笑顔で息子に接してくれていたことを思い出した。しかし、今春、札幌に引っ越してからは3人暮らしになった。特に夫が不在で2人の時、疲れていたりすると笑顔を見せていなかったことに気づかされた。この件以来、息子に笑顔で話しかけることを心がけている。

札幌市内のデパートやスーパーなどでベビーカーを押していると、6か月で9キロとぼつちやりとした体型のせいもあってか、特に女性の方に話かけられる。自分のことを言われているのが分かるのか、息子は話しかけられた人にはほほ笑み返す。「あら、笑ったわ！分かるのね」などと、見知らぬ方とのコミュニケーションがつながっていく。子育ての先輩方とは、短時間の会話でもとてもためになる。

子どもは大人をしっかり観察し、吸収している。最近では息子の表情から自分の状態を振り返ることが多い。息子の笑顔がつなぐコミュニケーションをこれからも大切にしていきたい。

(毎日新聞より)